

歴史に思いはせながら 青谷高生が古代米もみまき



手作業で丁寧にもみをまく生徒
11日、鳥取市青谷町青谷の青谷高

鳥取市青谷町青谷の青谷高の生徒が11日、古代米のもみまき体験をした。青谷地域の文学と歴史を学ぶ科目「青谷学」を選択する2年生14人が参加。生徒らは慣れないながらも丁寧な手つきで作業を進め、7枚の苗床にもみをまいた。もみまき体験は、青谷上

寺地遺跡史跡保存活用協議会の協力で3年前から行われている。生徒らはこの日、指導員から説明を受けながら苗床に土を入れ、古代米の一種である黒米のもみをまき、最後に土をかぶせた。初めてもみまきを体験した釜田菜月さん(16)は「1枚の苗床にどれくらいの量のもみをまけばいいかわからず難しかったが、うまくできた。成長するのが楽しい」と話した。

苗床の一部は同校で育て、田植えから収穫までを生徒の手で行う予定。土器作り体験も計画しており、収穫した米は、生徒お手製の土器で炊飯するという。

(安井桃華)